

所属・氏名（看護学部看護学科 氏名：吉兼 伸子）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 （紀要論文）看護師養成施設における看護教員の負担感について-対人関係の構築を苦手とする学生に焦点をあてて-	単著	2020 年 3 月	山口県立大学学術情報 第 13 号 p37-47	本研究は質問紙を用いて、対人関係の構築を苦手とする学生（以下、対人困難学生と示す）に起因する看護教員の負担感の関連要因を明らかにした。結果として、①看護教員の 93.2%は対人困難学生の教育を経験しており、うち 96%の対人困難学生は障害診断を受けていなかった。②看護教員の精神的負担感を従属変数に、各要因を独立変数に重回帰分析を行った結果、「臨地実習（ β .357）」「技術テスト（ β .269）」「保護者の情緒不安定（ β .245）」であった（調整済み R^2 .653）。対人的な内容指導の困難感が示された。
2 （発表）看護学生に必要な就労スキルの検討—一次的社会化を視野に加えて	単独	2023 年 11 月	第 58 回発達障害学会学術集会	看護教員は、看護学生の就労スキル(社会人基礎力)と一次的社会化(社会の基本的なルール)を必須ととらえているかを明らかにした。対象は 2023 年度 A 県看護教員教育力 up 研修において研究に賛同を得た 68 名 ○一次的社会化を含む就労スキルで必要と思う項目は、「嘘をつかない」「適切な挨拶」「約束や期限を守る」等一次的社会化項目が上位。 ○看護師として「思考や観察」「看護技術」は項目のベスト 20 に入ってなかった。
3 （発表）新人教育における新人看護師と先輩看護師の困難感の違い—社会面と業務面に焦点をあてて	共著	2022 年 11 月	第 57 回発達障害学会学術集会	業務面と社会面の新人の困難感項目を新人看護師と先輩看護師で比較検討した。対象は、地方中核病院に勤務する看護師 57 名である。結果は、○新人看護師が感じる困難は 1)報告・申し送り、2)重症患者の対応、3)急変対応の 3 つが有意に高かった。○先輩看護師が感じる困難は 1)感謝・お礼、2)課題の提出の仕方、3)指導や注意を受けた後の反応、4)約束を守るの 4 つが有意に高かった。
4 （発表）就労スキルを視点とした看護学実習困難感の検討	単独	2020 年 8 月	第 55 回発達障害学会学術集会	実習指導者がとらえる実習困難感を就労 5 スキル（職場態度、予定管理、ストレス管理、体調管理、看護的思考）視点で検討。結果として、1. 実習指導者が捉えた 4 年間の実習困難状況エピソード（168）はコード数順に、「看護過程が不適切」「患者との関係が不適切」「学生の行動傾向」「実習態度が不適切」に分類された。 2. 就労スキルを視点とした実習困難状況の分類では、「職場態度」が重要視された。
5 （発表）看護師養成施設における看護教員の負担感について	単独	2020 年 8 月	第 54 回発達障害学会学術集会	看護教員の対人関係を苦手とする学生に起因する負担感の要因を検討した。A 県 8 看護師養成施設の看護教員を対象に調査（n=88）。 ○看護教員は、対人困難学生の教育を 93.2%経験、内 96%は障害診断は受けていない。 ○看護教員の精神的負担感に関連した項目は、臨地実習（ β .357）」「技術チェック（ β .269）」「親の情緒不安定（ β .245）」「自分の精神衛生に影響（ β .236）」であった（調整済み R^2 .653）。

令和 6 年 5 月 1 日 現在